

2024年3月期 第2四半期 決算説明会

第100期：第2四半期累計期間
(2023年4月1日～2023年9月30日)

2023年11月6日

思いをこめて、あしたをつくる
Passion in Creating Tomorrow

太平洋互業株式会社

1. 2023年度 第2四半期業績
2. 2023年度 通期予想
3. 中長期取組み状況

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 2Q 連結業績



堅調な自動車生産により販売物量が増加し、売上・利益ともに過去最高

(億円、%)

	2022年度 2 Q累計実績	2023年度		前年同期比		予想比	
		7/27発表 2 Q累計予想	2 Q累計実績	増減	増減率	増減	増減率
売上高	909	975	過去最高 1,026	+117	+12.9	+51	+5.3
営業利益	26	55	過去最高 74	+48	+188.0	+19	+36.3
営業利益率	2.9%	5.6%	7.3%	+4.4P	-	+1.7P	-
経常利益	55	78	過去最高 103	+47	+86.4	+25	+32.5
経常利益率	6.1%	8.0%	10.1%	+4.0P	-	+2.1P	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	41	50	過去最高 75	+33	+82.3	+25	+50.6
四半期純利益率	4.5%	5.1%	7.3%	+2.8P	-	+2.2P	-
平均為替レート (米ドル)	129.8円	132.8円	139.9円	+10.1円	-	+7.1円	-

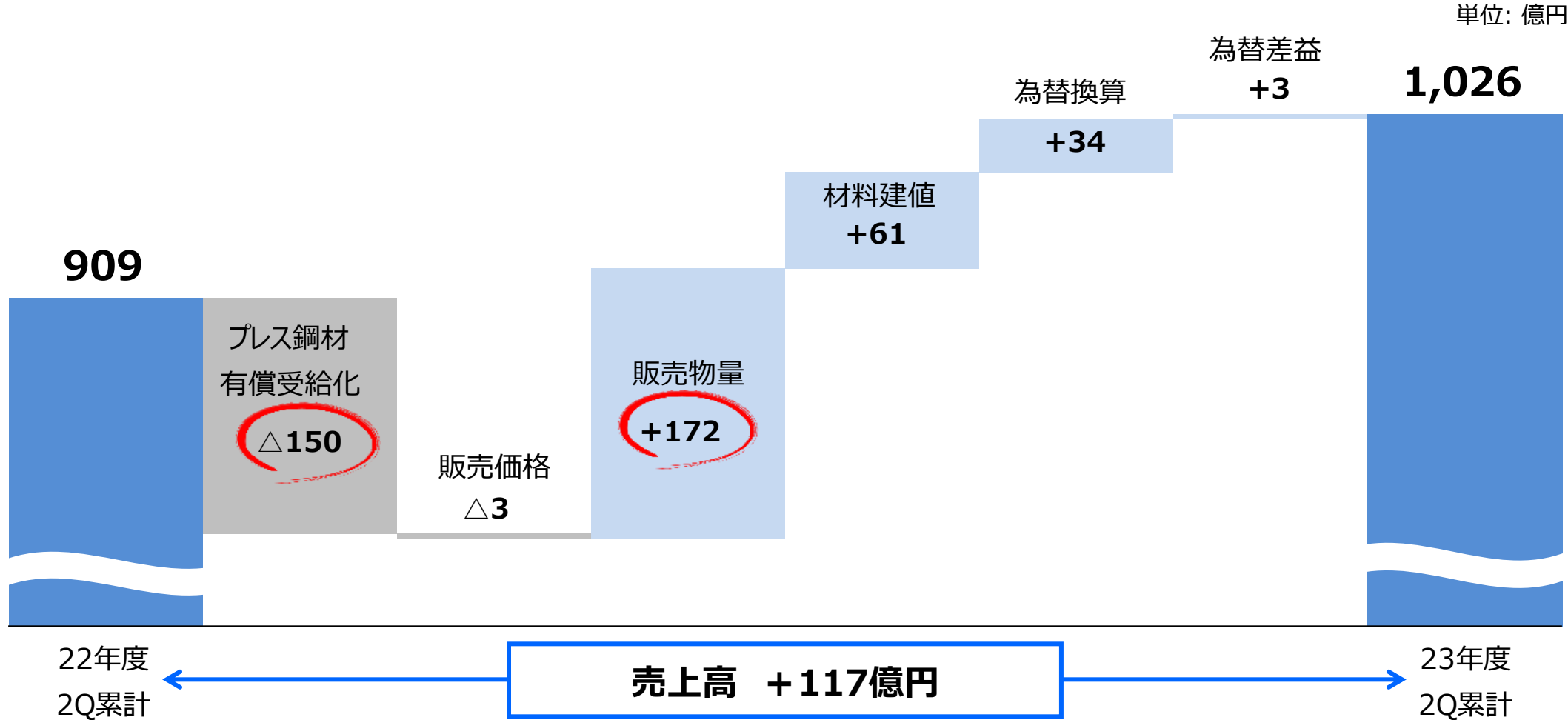
※2022年度第4四半期以降、プレス鋼材の有償受給化による売上高と売上原価の相殺表示対象増加により、売上高が減少しています。

2023年度第2四半期累計実績には、上記影響により、前年同期比150億円の売上高減少が含まれています。利益への影響はありません。

1-2 2Q 連結売上高 増減要因

プレス鋼材有償受給化による減収以上の販売物量増加により、2Qとして過去最高

単位: 億円



1-3 2Q 連結営業利益 増減要因



生産物量増加によりコストは増加、販売物量増と原価改善により2Q累計で過去最高益

単位: 億円



1-4 2Q 連結事業別セグメント



プレス・樹脂は販売物量増加により増収・増益
バルブは為替影響で増収、材料高によるコストアップで減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	22/2Q 累計実績	23/2Q 累計実績	前年同期比		22/2Q 累計実績	23/2Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
プレス・樹脂	638	741	+103	+16.2	1	55	+53	-
(プレス鋼材有償受給化影響)		※ (△150)						
営業利益率					0.3%	7.5%	+7.2P	
バルブ	269	284	+14	+5.3	23	19	△4	△18.3
営業利益率					8.8%	6.9%	△1.9P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

1-5 2Q 連結地域別セグメント



日本、欧米、アジアともに販売物量増加により増収・増益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	22/2Q 累計実績	23/2Q 累計実績	前年同期比		22/2Q 累計実績	23/2Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	338	341	+3	+0.9	15	38	+22	+145.1
(プレス鋼材有償受給化影響)		※ (△150)						
営業利益率					4.6%	11.2%	+6.6P	
欧米	379	473	+94	+24.9	△3	15	+18	-
営業利益率					△0.9%	3.2%	+4.1P	
アジア	191	211	+19	+10.4	11	14	+2	+22.6
営業利益率					6.0%	6.7%	+0.7P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

1. 2023年度 第2四半期業績
- 2. 2023年度 通期予想**
3. 中長期取組み状況

2-1 通期 連結業績予想



2Q累計実績と最新情報を踏まえ通期予想を見直し、売上・利益ともに過去最高を見込む

(億円、%)

	2022年度	2023年度		前期比		7/27発表比	
	通期 実績	通期予想		通期		通期	
		7/27発表	今回見直し	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,912	1,900	1,980	※3 +67	3.5%	+80	4.2%
営業利益	92	105	120	+27	29.1%	+15	14.3%
営業利益率	4.9%	5.5%	6.1%	+1.2P	-	+0.6P	-
経常利益	132	140	150	+17	13.6%	+10	7.1%
当期純利益 ※1	93	95	105	+11	12.9%	+10	10.5%
ROE	7.0%	6.6%	7.1%	+0.1P	-	+0.5P	-
ROA(営業利益ベース)	3.7%	3.9%	4.5%	+0.8P	-	+0.6P	-
一株当り純資産	2,309円	2,590円	2,712円	403円	17.5%	122円	4.7%
平均為替レート(米ドル)	134.9円	131.4円	※2 140.0円	5.1円	-	8.6円	-

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

※2 第3四半期以降の為替レート前提を、前回7/27発表値 130円/\$から、今回予想値 140円/\$に見直しています。

※3 2022年度第4四半期以降、プレス鋼材の有償受給化による売上高と売上原価の相殺表示対象増加により、売上高が減少しています。

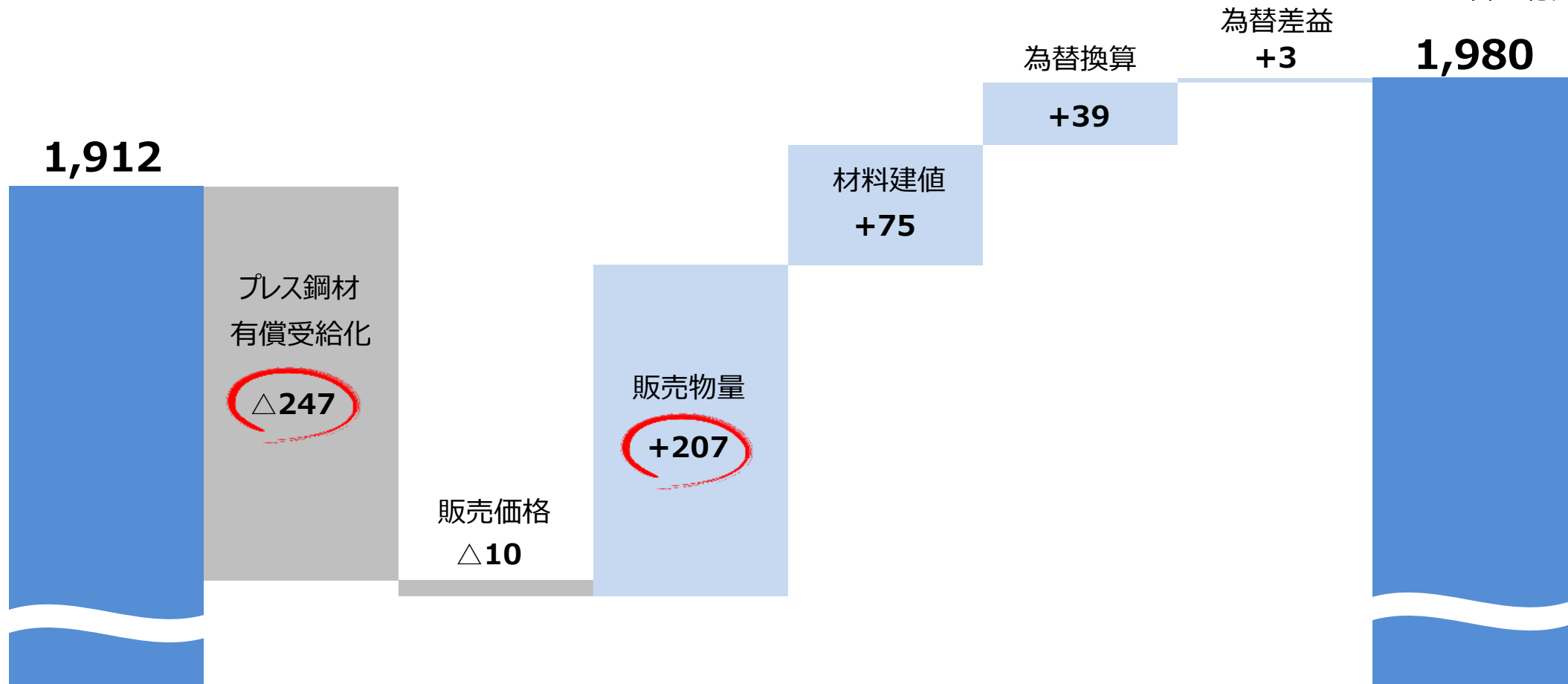
2023年度は、上記影響により、前期比247億円の売上高減少が含まれています。利益への影響はありません。

2-2 通期 連結売上高 増減要因



プレス鋼材有償受給化による減収を販売物量増加でカバーし、過去最高となる見込み

単位: 億円



22年度

売上高 +67億円

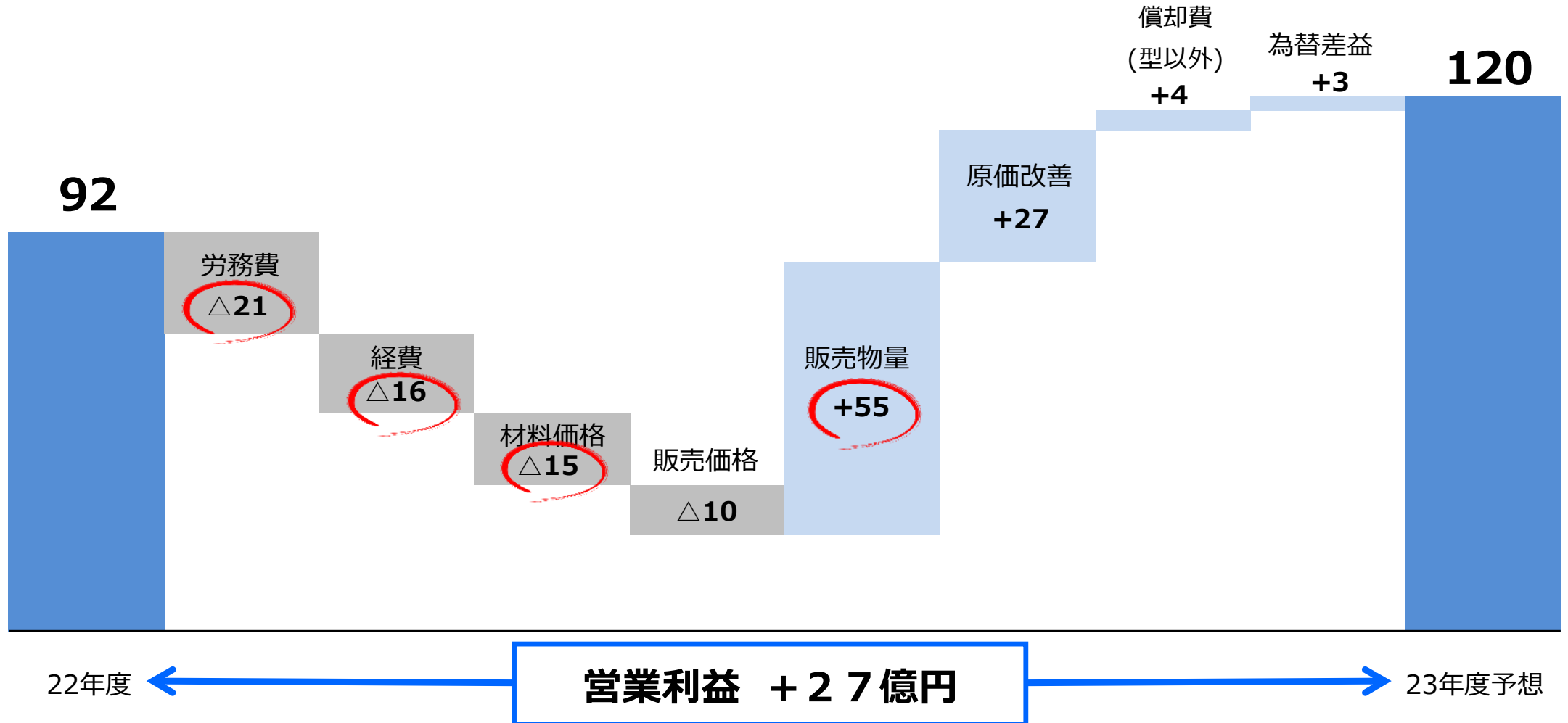
23年度予想

2-3 通期 連結営業利益 増減要因



生産物量増加によりコストは上昇、販売物量増加と継続的な改善で過去最高益となる予想

単位: 億円



2-4 通期 連結事業別セグメント



プレス・樹脂は販売物量増加により増収・増益、バルブは増収・減益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	前期比 増減率	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	前期比 増減率
プレス・樹脂	1,368	1,425	+56	+4.2	49	84	+34	+68.7
(プレス鋼材有償受給化影響)	(△51)	※ (△298)	(△247)					
営業利益率					3.6%	5.9%	+2.3P	
バルブ	542	550	+7	+1.5	42	36	△6	△15.5
営業利益率					7.9%	6.5%	△1.4P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

2-5 通期 連結地域別セグメント



日本、欧米は実質的に増収・増益、アジアは減収・減益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比		2022年度 実績	2023年度 予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	706	685	△21	△3.0	49	59	+9	+18.2
(プレス鋼材有償受給化影響)	(△51)	※ (△298)	(△247)					
営業利益率					7.1%	8.6%	+1.5P	
欧米	781	880	+98	+12.7	△1	28	+29	-
営業利益率					△0.2%	3.2%	+3.4P	
アジア	425	415	△10	△2.4	36	26	△10	△29.5
営業利益率					8.7%	6.3%	△2.4P	

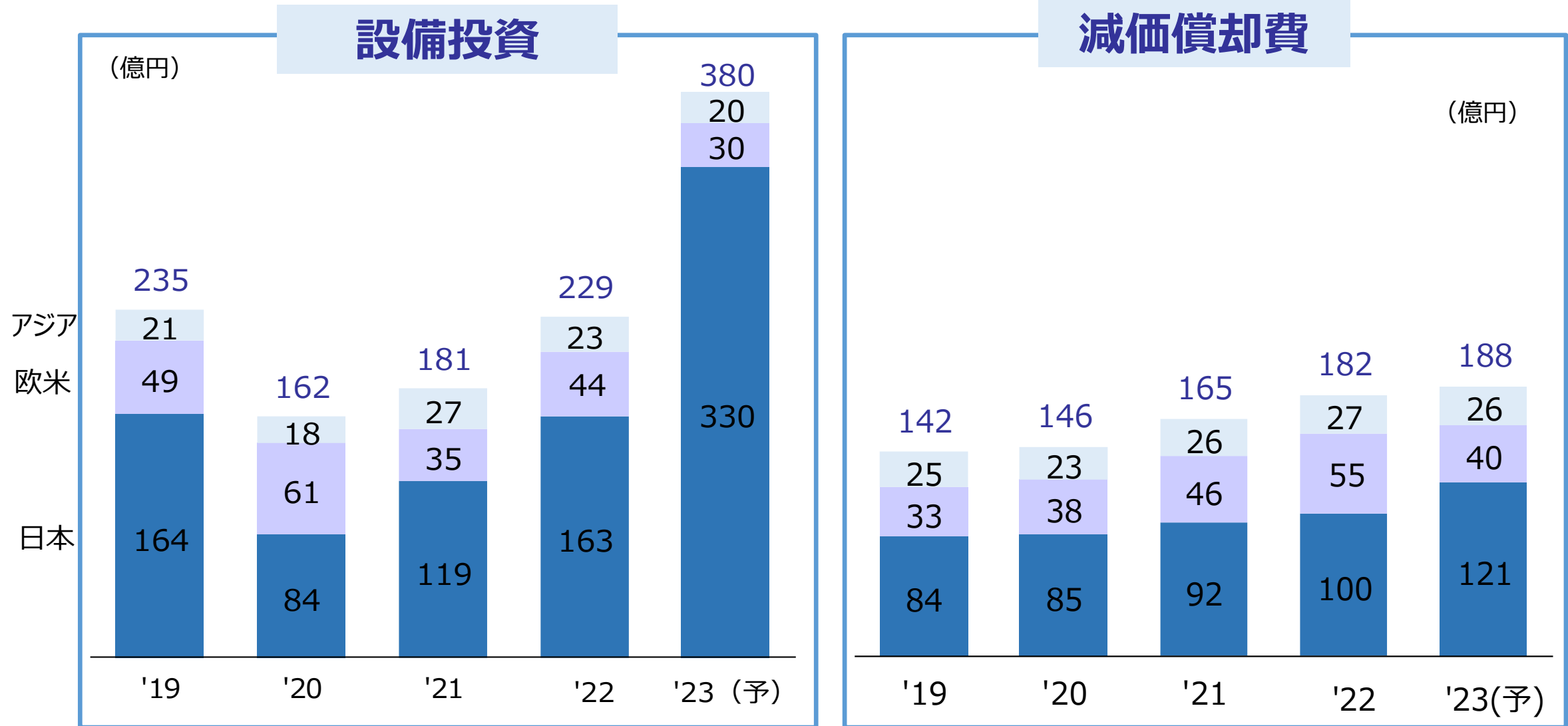
※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

2-6 連結設備投資・減価償却費

プレス新工場やバルブ新製品生産ラインなどの積極投資を実施。

設備投資

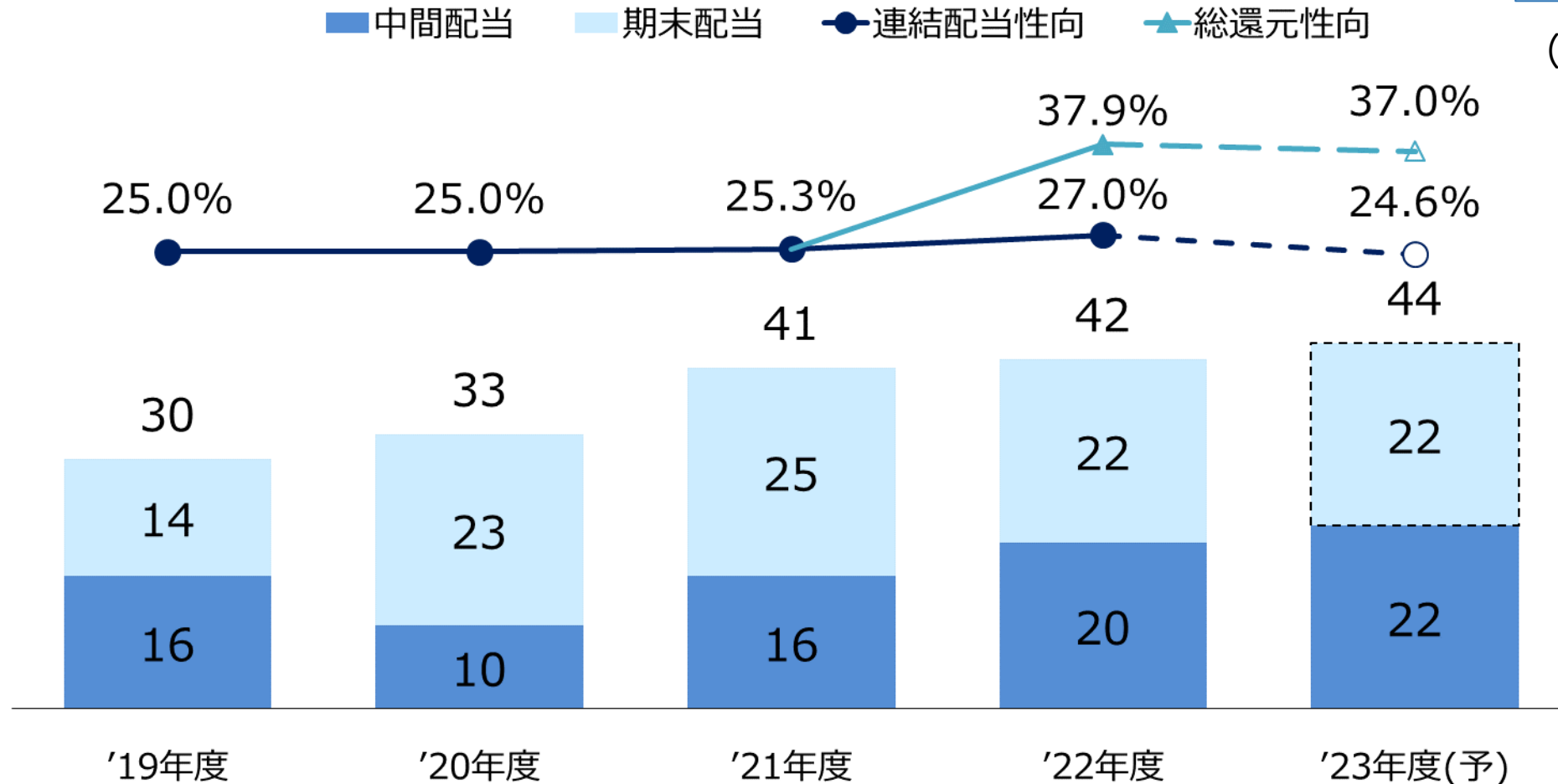
減価償却費



2-7 株主還元

第2Qの連結業績および通期予想を考慮し、配当予想を修正
 株主還元・資本効率向上を目的として、4月に自己株式取得を実施済

日本格付研究所
 長期発行体格付
 A-安定的

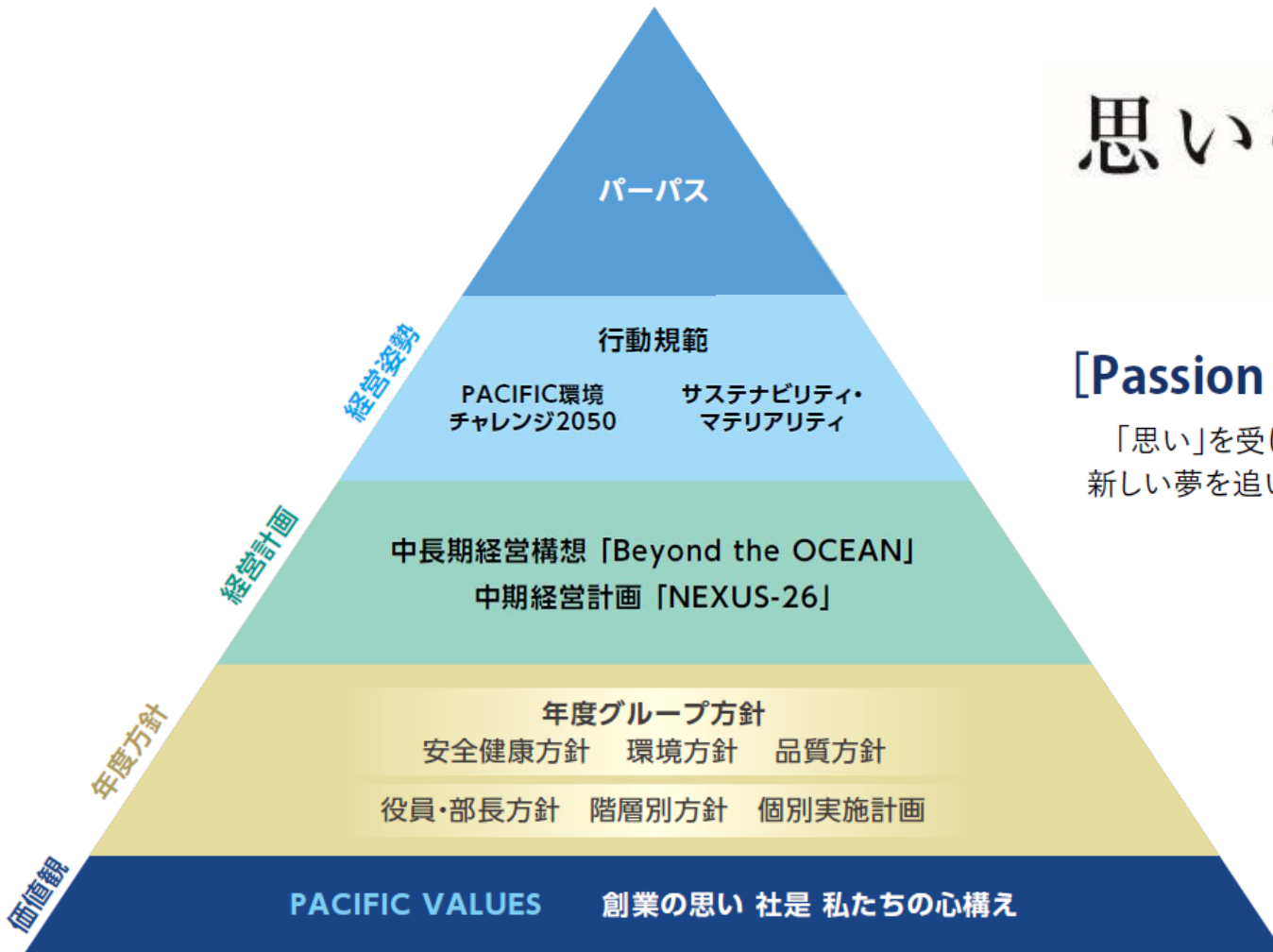


1. 2023年度 第2四半期業績
2. 2023年度 通期予想
3. **中長期取組み状況**

3-1 太平洋工業グループ理念体系



パーパス実現のため各方針に落とし込み、持続可能な経営を遂行



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow

[Passion:思い]

「思い」を受け継ぎ、
新しい夢を追い求める。

[Create:つくる]

カイゼン力で、
革新的価値を「つくる」。

[Tomorrow:あした]

サステナブルな「あした」に、
ともに向かう。

多様な従業員が力を発揮し、
新たなる価値を創造する

3-2 サステナビリティに関するマテリアリティ(重要課題)

経営目標とマテリアリティを統合し、優先度を高めて取り組み推進

ステークホルダーとの信頼醸成

企業倫理・コンプライアンス
責任ある調達
顧客満足度の向上
地域社会の発展

特に関連するSDGs

4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	16 平和と公正をすべての人に
17 パートナリシップで目標を達成しよう		

製品を通じた社会・顧客課題の解決

持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献

【経営目標】
新規商品・サービス上市件数

モビリティの安全性向上
環境配慮製品の開発

【経営目標】
電動車向け売上比率

特に関連するSDGs

3 すべての人に健康と福祉を	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナリシップで目標を達成しよう

環境負荷の極小化

気候変動の緩和および適応

【経営目標】CO₂排出量

持続可能な資源の利用
水資源の保全

特に関連するSDGs

6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

人財の尊重と活躍

【経営目標】
従業員エンゲージメント

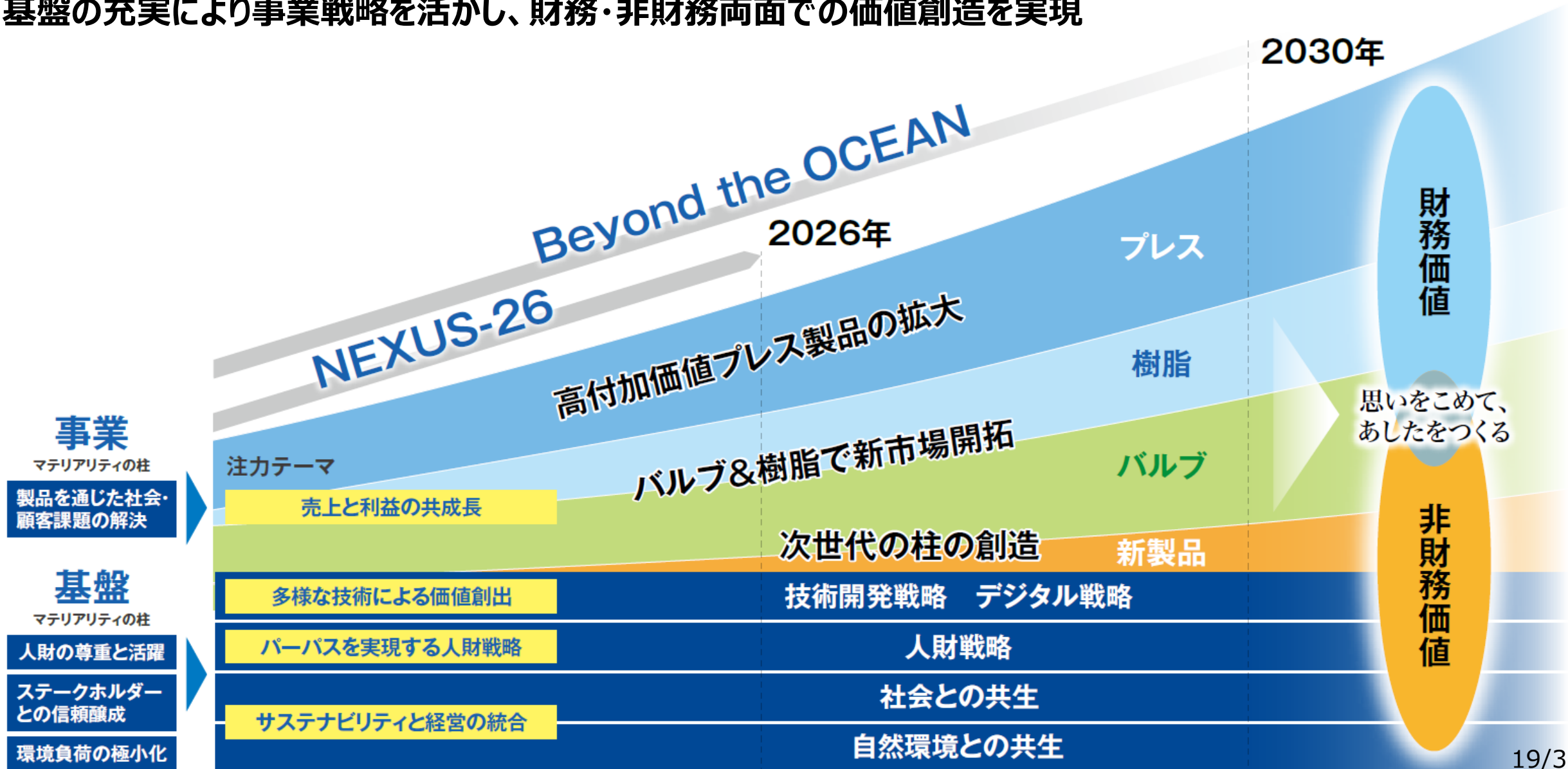
人権の尊重
安定した雇用と働きやすい職場
従業員の安全と健康
人財育成と挑戦できる風土の醸成
ダイバーシティ&インクルージョン

特に関連するSDGs

4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を推進しよう	8 働きがいも経済成長も
10 人や国の不平等をなくそう	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

3-3 中長期的な成長イメージ

基盤の充実により事業戦略を活かし、財務・非財務両面での価値創造を実現



3-4 経営目標



財務価値目標と非財務（事業・サステナビリティ）価値目標により
持続可能な成長とパーパスの具現化をめざす

財務価値目標

資本効率を高め、持続可能な成長を実現する

	2022年度実績	2026年度目標	2030年度目標
売上高	1,912億円	2,100億円	持続的成長
営業利益率	4.9%	7%以上	10%以上
ROE	7.0%	8%以上	10%以上

非財務価値目標

■事業価値目標

製品を通して、社会・顧客課題を解決する

	2026年度目標	2030年度目標
主力事業 <u>電動車向け売上比率</u> (当社試算)	50%	70%
新事業 <u>新規商品・サービス上市件数</u> (2023年度から)	15件	35件

■サステナビリティ価値目標

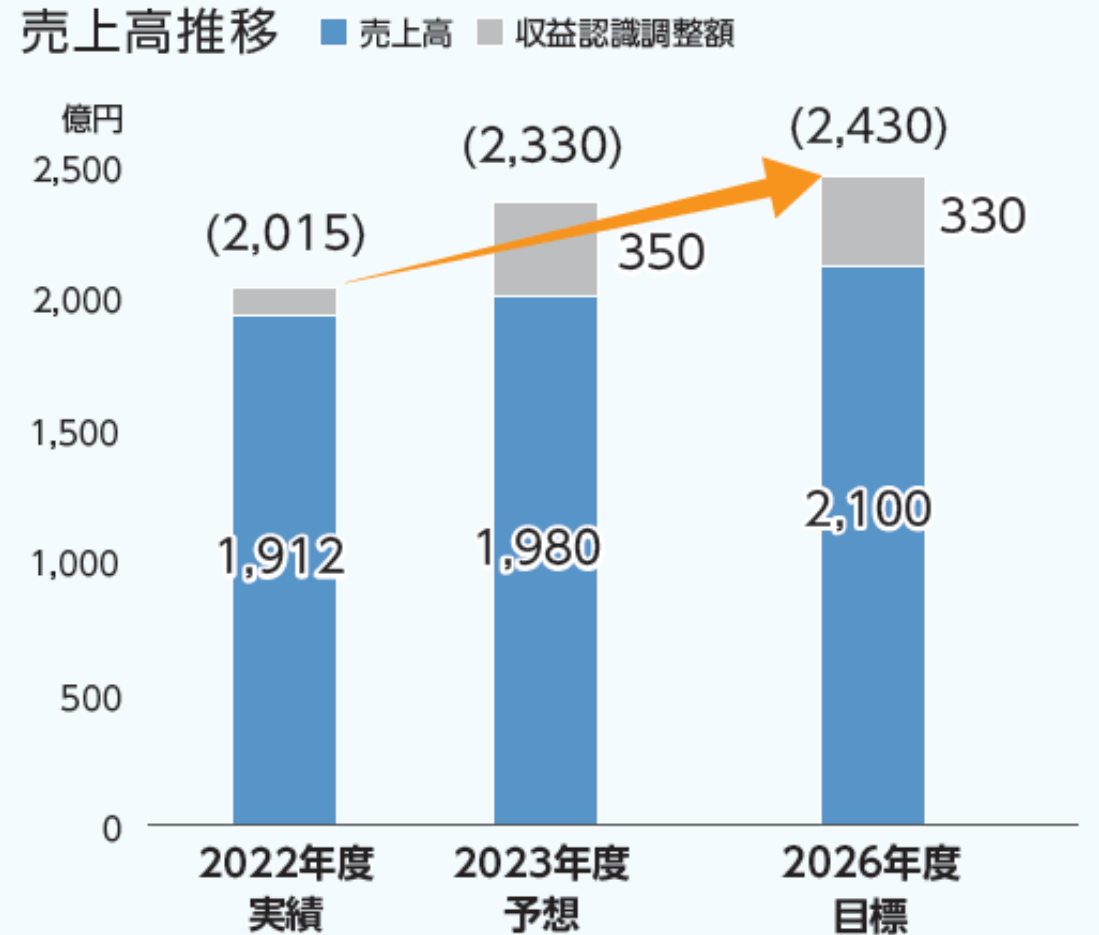
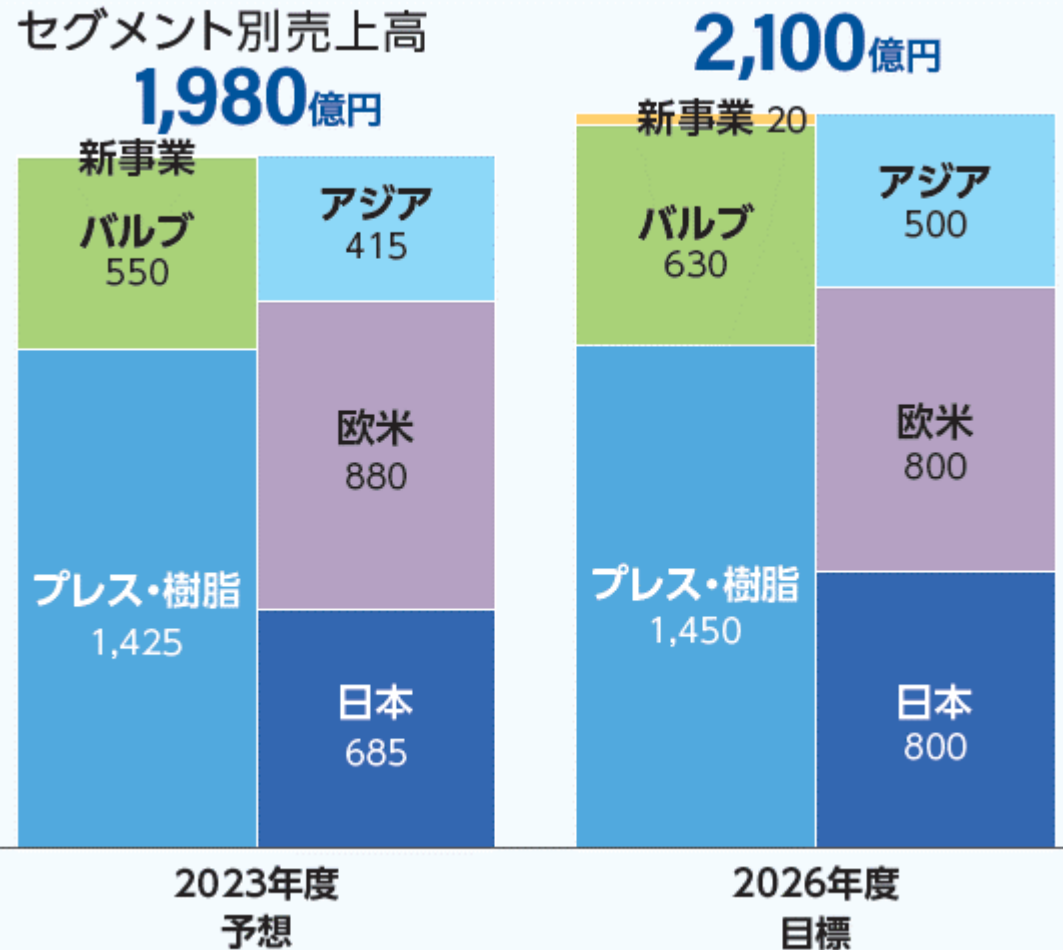
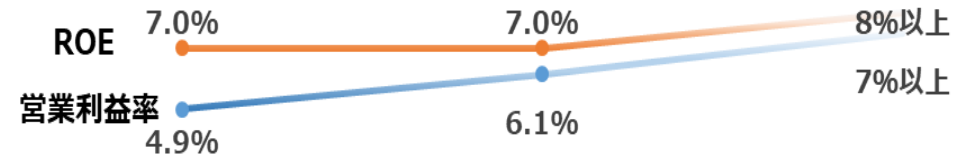
従業員が力を発揮し、
持続可能な成長を実現する

	2026年度目標	2030年度目標
人的資本 <u>従業員エンゲージメント</u>	2023年度に初回調査を実施後、 中長期目標を策定	
自然資本 <u>CO₂排出量</u>	30%削減	50%削減

(2019年度比、対象：スコープ1、2、範囲：連結)

3-5 NEXUS-26 目標と進捗

中長期的な成長に向けた取り組みは順調に進行



開発力と生産技術力を磨き、脱炭素と安全性向上に貢献
高付加価値の創造とコスト競争力の両輪で、収益性を向上

2030年のめざす姿

- ・脱炭素時代に勝ち残るべく、「提案型技術集団」となり高付加価値を創造
- ・生産技術革新&スマートファクトリー化で、他社を凌駕するコスト競争力を確立

プレス売上目標
2022▶2026年度
1,290▶1,550億円
CAGR4.7%
(収益認識基準変更前)

NEXUS-26 注カテーマ

1.脱炭素に向けた製品づくり

- ・冷間プレス技術の領域拡大
- ・軽量化製品の売上拡大
- ・電動車部品の売上拡大
- ・環境負荷を低減した工場づくり

POINT

2.ものづくり力・技術力向上

- ・次世代ハイテン技術の進化
- ・接合技術の先行開発
- ・構造解析力、ボディ構造提案力強化

3.強固な事業基盤の確立

- ・設備・搬送自動化による省人
- ・AIを活用したラインづくり
- ・国内外拠点の再整備
- ・スマートファクトリー化による効率向上
- ・マルチスキル人材の育成



3-7 ホットスタンプ製品の冷間プレス化

構造解析技術の高度化と積極的な提案で顧客との信頼関係を構築

新型プリウスに1470MPa 冷間超ハイテン採用

- ・製造工程全体の生産性に配慮した最適形状
- ・トヨタ自動車 プロジェクト表彰受賞



1470MPa材ルーフセンターリフォース



新型クラウンで1180MPa 冷間超ハイテン化に成功

- ・高剛性、車両意匠、
ドライバーの視界確保を実現
- ・トヨタ自動車 プロジェクト表彰受賞

コスト
40%削減

省資源
67%

CO2排出量
239t削減

※旧型クラウンの同部品
(ホットスタンプ品) 比



3-8 プレス新工場完成

サステナブルな価値づくりを実現する最新鋭のグローバルマザー工場を新設



- 人 員: **250名**
- 敷地面積: 約92,000㎡ : 延床面積: 約48,000㎡ (工場)
- 投資総額: **300億円** (厚生棟・工機棟・R&D棟を含む)
 - プレス機: **6台** (3500tトランスファー他)
 - 溶接機: **30台** (自動設備・自動搬送含む)

売上・利益の拡大

ボディシエル (超ハイテン・アルミ) やバッテリー製品の拡販・増産と自動化・高効率化による収益力向上

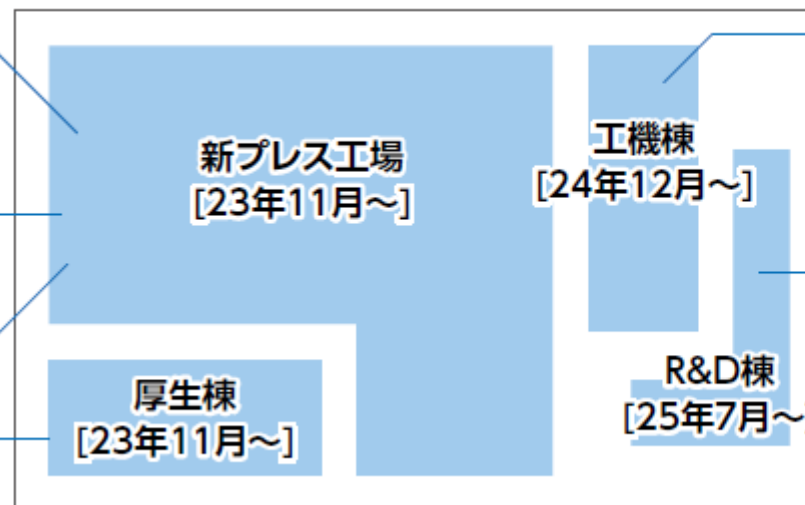
CNに向けた取り組み

設備革新・高効率設備導入・再生可能エネルギー活用

働きやすい職場づくり

工場内空調完備、重筋作業の改善 (自動化設備・AGV導入)

工場レイアウト



金型革新

データ管理・短納期化
シミュレーション多用
金型製作能力増強

開発力強化

樹脂製品開発環境整備
共創空間の構築

3-9 樹脂事業戦略



強みを活かしてグローバルに新市場創出し、競争力の高い樹脂事業を強化

2030年のめざす姿

- ・ 防音防振・新加飾技術を応用し**新市場の創出**
- ・ **サーキュラーエコノミーへの転換**

樹脂売上目標

2022▶2026年度
180▶250億円
CAGR8.6%

NEXUS-26 注カテゴリー

1.防音防振技術を確立し 新製品・新事業化

POINT

- ・ 電動車向け新製品開発加速
(ウレタン発泡製品等)
- ・ 新規顧客拡販(メガサプライヤー向け)
- ・ 自動車分野以外への展開

2.加飾技術を進化させ グローバルに顧客開拓

POINT

- ・ キャップ・オーナメントの新規顧客
拡販(ASEAN・インド市場注力)
- ・ グローバルでの生産能力拡大
(北米・アジア)

3.材料開発力の強化

- ・ ウレタン材、塗装レス材、
高機能樹脂
- ・ 樹脂CAE評価環境の強化
- ・ マルチマテリアル、
リサイクル材開発

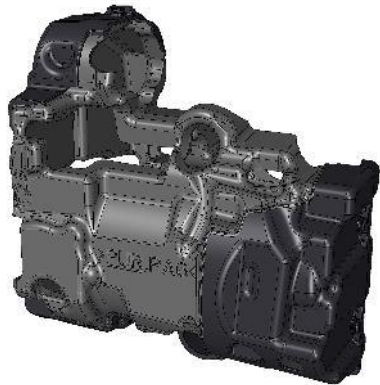


3-10 電動車での新たなニーズに応える樹脂製品

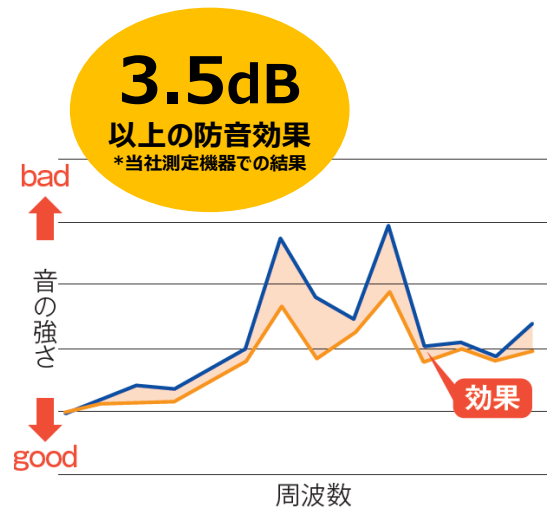


強みの防音技術・空力制御技術を高め、電動車への採用拡大をグローバルに推進

電動車向け防音カバーを開発・採用



電動コンプレッサー用防音カバー



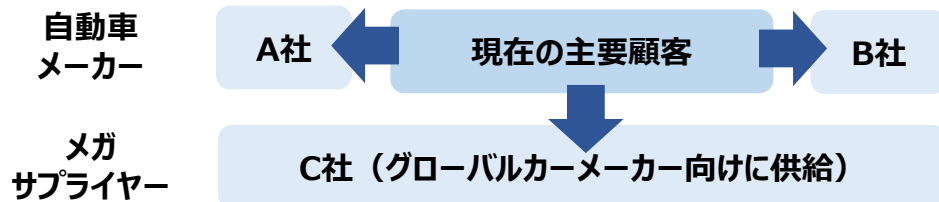
アルミホイール向け空力キャップの採用拡大



bZ4X

「軽量化」と「空力性能向上」の両立を実現し、電費もカイゼン

新規顧客開拓を推進



bZ4X



アルミホイール

当社ホイールキャップ

プリウス



アルミホイール

当社ホイールキャップ

電動車向け高付加価値製品の開発で、新しい成長の柱を構築

2030年のめざす姿

- ・市場ニーズを先取りした、**スピード感ある開発型事業展開の実現**
- ・**電動車用熱マネジメントシステム向け製品で、新たな事業の柱を確立**

バルブ売上目標

2022 ▶ 2026年度
542 ▶ 630億円
CAGR3.8%

NEXUS-26 注カテーマ

1. 電動化を見据えた新製品・新技術開発

POINT

- ・シール技術を活かした熱マネジメント商品確立
- ・無線通信技術を活用したスマート製品開発
- ・グローバルで市場ニーズを先取り、先行開発促進



2. 既存事業効率化を進め収益基盤強化

- ・市場動向に応じたグローバル拠点・開発の再編
- ・DXと自動化による体制構築
- ・TPMSの新規顧客開拓を推進



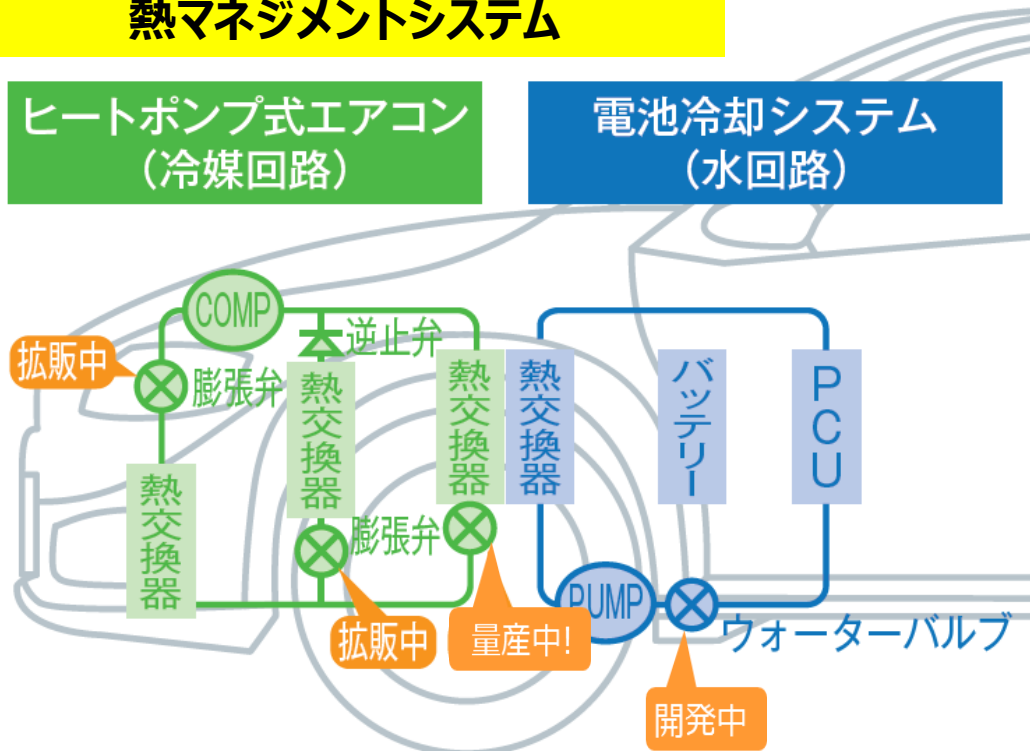
3-12 熱マネジメントシステム向けバルブ

BEV向け電動膨張弁量産開始、拡販・ラインナップ拡充開発を推進

熱マネジメントシステム

ヒートポンプ式エアコン
(冷媒回路)

電池冷却システム
(水回路)



- ・電費向上・熱管理ニーズの高まりで、ヒートポンプ式システムの採用拡大
- ・システム内の冷媒制御用に電動膨張弁の需要が拡大

電動膨張弁量産スタート



機能と品質を兼ね備えた、
世界最小クラスの小型・軽量設計



自動化・加工点・動線にこだわり、
高精度・高生産性・最小原価を追求

世界3極体制での開発・拡販推進

欧州

幅広い顧客に多様な
製品ラインナップを
開発・提案



日本

バルブ技術、電子技術などの
コア技術の開発を統括し、
グローバル展開

米国

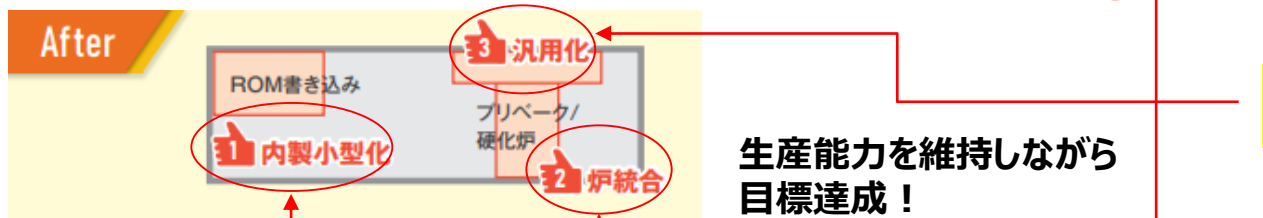
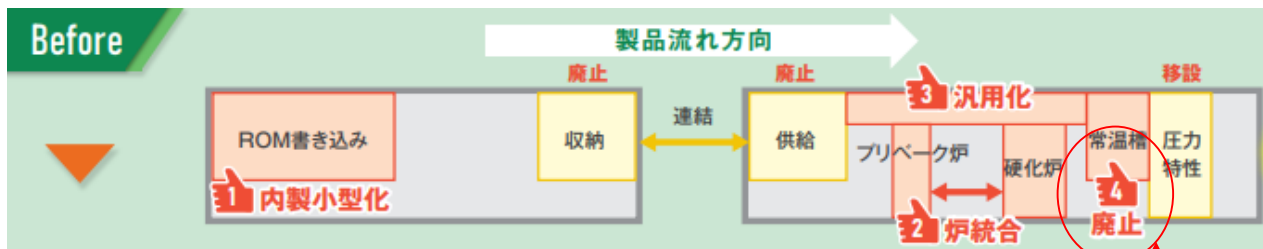
日本・欧州の技術を活用、
認知活動から顧客獲得へ



3-13 TPMSコンパクト汎用ライン開発



主力製品であるTPMSの生産ラインを改善
 設備投資1/2、スペース1/2、
 CO2排出量42%削減を達成



生産能力を維持しながら
 目標達成！

1.内製による小型化



基板供給機・ROM書込機・基板分割機を内製し小型化。人材育成にも寄与。

2.炉の統合



工程配置と制御を工夫、材料メーカーとも協力し、前加熱炉と硬化炉を統合。

3.設備の汎用化



製品搬送治具、受け治具を改善し汎用化。3Dプリンターも活用し事前評価を実施。

4.常温層廃止



常温検査工程を後へ移設することで製品を自然冷却、常温層が不要に。

海外拠点への横展開

中国：常熟拠点
 2022年4月：Eタイプ生産開始
 10月：Gタイプ生産開始

アメリカ：オハイオ拠点
 2023年5月：Gタイプ生産開始
 コンパクト化に加え、自動検査による省人にもチャレンジ

3-14 新製品開発戦略

社会課題解決に貢献するIoT製品・システムを開発し、目標達成をめざす

2030年のめざす姿 無線・アプリ・クラウド・AI・ビッグデータを活用したデータビジネスを、新規事業の柱へ



- 事業基盤拡充
- チャレンジ人財育成

社内公募型 新規事業創出プロジェクト



OMEGA PROJECT

事業領域

3-15 社会課題を解決するIoT商品



新商品・ソリューションの機能向上と拡販を推進

マルチセンシングロガー 「e-WAVES」

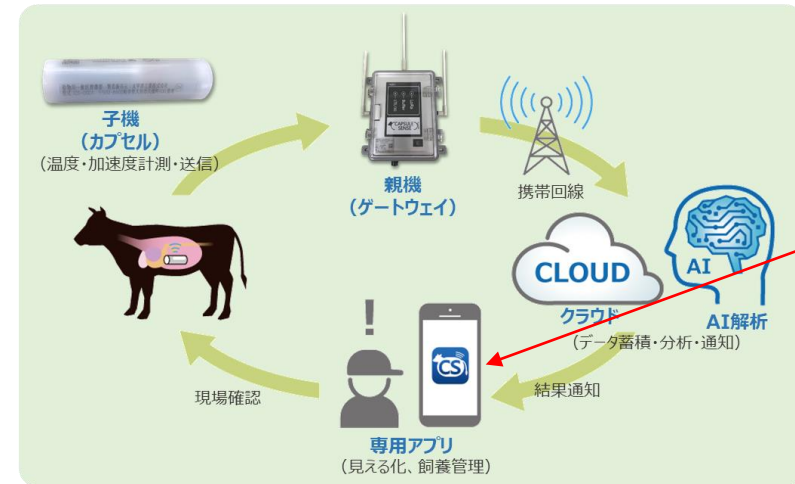


- ・温度・湿度など6つのセンサーでリアルタイム物流管理
- ・食品、医薬、再生医療向けに幅広い業界ニーズ適合
- ・24/1月、廉価モデルを上市予定

2023年 超モノづくり部品大賞
ものづくり生命文明機構 理事長賞 受賞

牛体調モニタリング 「CAPSULE SENSE」

システム概要



アプリ画面



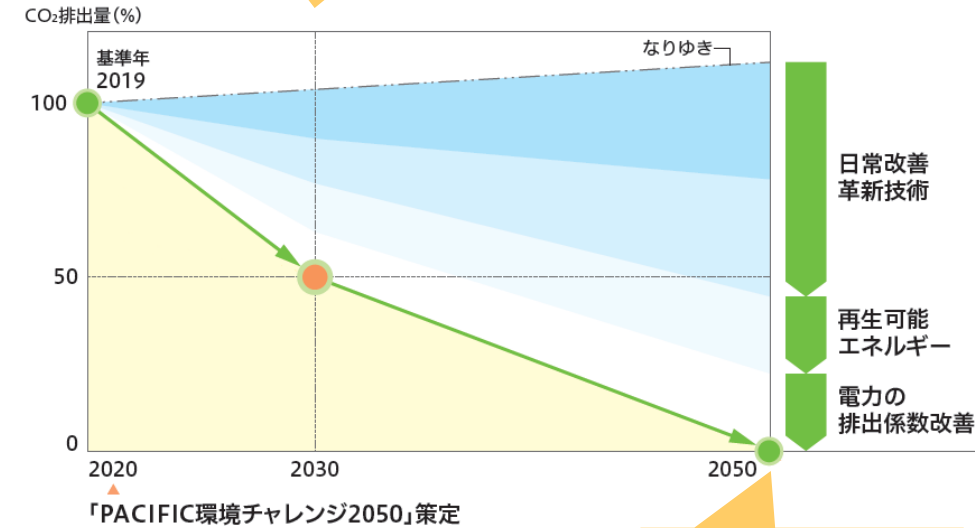
- ・温度、加速度センサーで牛の体調をモニタリング
- ・生産性向上をIoTで支援、未来につづく畜産へ
- ・各地での拡販活動、性能向上に向けた開発を推進

3-16 環境負荷極小化の取組み

「PACIFIC環境チャレンジ2050」でマイルストーンを定めて活動を推進

	マテリアリティ	SDGs	項目	現状 (22年度実績)	2030年 目標	2050年 目標
カーボン ニュートラル	気候変動の 緩和及び 適応	13 気候変動に 関連する持続可能な対策を 7 エネルギーを安全に そしてクリーンに	CO ₂ 排出量	76.1(kt) 2019年度比 ▲19.3%	2019年度比 50% 削減	ネットゼロ
環境負荷 極小化	持続可能な 資源の利用	12 つくる責任 つかう責任	廃棄物 排出量	3,625(t) 2019年度比 国内▲11.8% 海外▲7.9%	2019年度比 国内 60%削減 海外 30%削減	極小化
	水資源の 保全	6 安全な水とトイレ を世界中に	水使用 量	1,394 (km ³) 2019年度比 ▲20.1%	適正利用	極小化

2030年中期目標
CO₂排出量……▲50%
再エネ利用率……20%



**CO₂排出量
ネットゼロ**

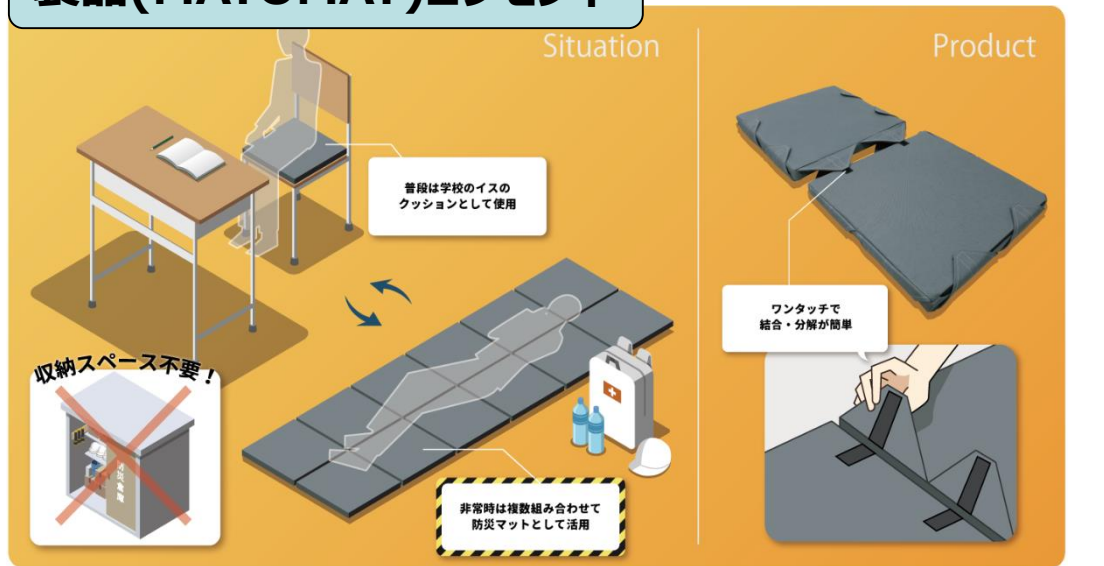
- 取組み事例：
- ・タイ子会社の電気エネルギーゼロカーボン化
 - ・若柳工場での廃プラスチックマテリアル化
 - ・電着塗装設備小型化による水使用量削減

3-17 サーキュラーエコノミーの取組み：防災用マット



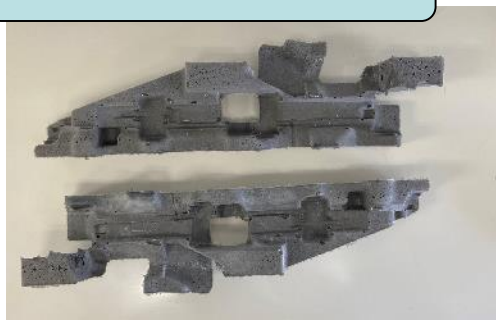
廃棄物のアップサイクル製品を地元企業・福祉作業所と連携し実用化

製品(MATOMAT)コンセプト



大垣市、大垣市教育委員会、当社で実証実験の協定書締結

アップサイクルの流れ



ウレタン製品の端材



粉碎



チップ



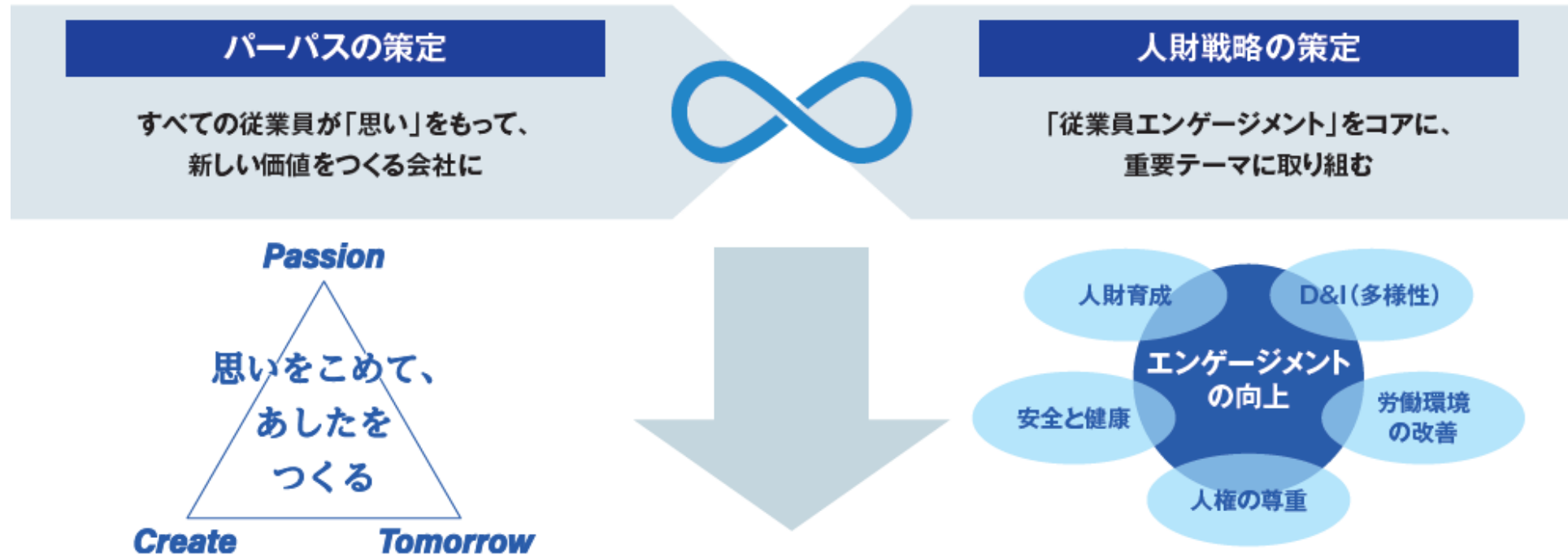
圧縮プレス成形



チップモールド 33/36

3-18 人財の尊重と活躍（人財戦略）

パーパスと戦略を、活かしたものにするための取り組みを推進



- ・ビジョンの共有：役員が中心となり従業員への説明会や意見交換会を繰り返し実施
- ・マイパーパス：従業員が自分のパーパスを考え、仲間と共有することで相互理解を深める活動を実施
- ・エンゲージメント：1回目の従業員エンゲージメント調査を実施し、目標値を決定、向上策を実行

3-19 統合報告書・サステナビリティデータブック発行



「サステナビリティレポート」から進化、統合思考で当社の価値創造ストーリーを開示

統合報告書

「Creating Tomorrow Report」



「サステナビリティデータブック2023」



<https://www.pacific-ind.co.jp/sustainability/sr/>

<https://www.pacific-ind.co.jp/investor/ctr/>



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow